

C に伴う一体型施設の需要は高まると考えています。また、新病院オープン後、市民から福祉施設等への要望がなされた場合で、徳洲会に施設転用の意向があり、市立病院機能として補完できる用途であれば徳洲会が所有する部分の転用について検討してまいりたい。

(森) 病院の存在価値は、患者が望む医療が提供できるかがすべてである。救急医療も、高度医療も、そして医療と福祉の連携も最終的に市民の利益につながる。和泉市がとりいれた指定管理者制度の導入が間違いでなかったということの実証あるのみ。それが市民にとって最大の利益であると思う。スピード感を持って新病院建設を進めてほしい。

一般質問はインターネット映像中継でご覧になれます。
和泉市議会議会中継を検索ください。

季節の風情



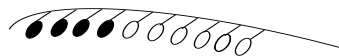
垂れている稲穂にむいておじぎする

会 派 五月会 (柏富久蔵 ・ 関戸繁樹 ・ 森久往)
庁舎整備特別委員会副委員長 ・ 都市環境委員会委員
議会運営委員会委員 ・ 議会改革検討会議委員
適正就学対策審議会委員 ・ 泉北環境整備施設組合議会議員
南大阪振興促進議員連盟議員

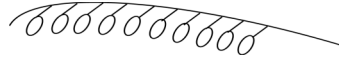
森ひさゆき取り組み目標進捗状況(%)

10 50 100

■ゲートキーパー推進



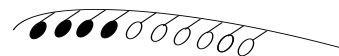
■若者自立支援対策



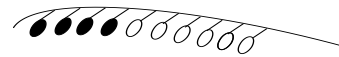
■次世代リーダーの育成



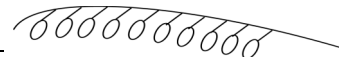
■通学路整備の推進



■学校施設設備の改善



■ボランティアネットワーク構築



■補助金に頼らないまちづくり運営組織の発足



■武道団体連絡会の発足



B それどころか競合ライバル会社にとっては弱みを知ったことで逆に勝つためのチャンスを与えられたことになる。つまり会社はそのことで倒産することもあり得る。従業員が忘れてはならないことは、会社から給与をもらって家族を支え自分の生活が成り立っているということである。

役所も同じである。役所はこのようなことでは倒産しない。しかし、メディアに訴えたり他の団体から戒められるようなことは和泉市民にとっては大きなマイナスである。安易に戒めを他に求めるべきではない。安定職であるがゆえ甘んじることなく内からの自浄作用の戒めが必要である。「清きも清からざるも自らのことなり。他のものに寄りて清むることを得ず」。そんな方向性と市長にはもっと夢を語ってほしい。

連絡先 〒594-1117 和泉市鍛冶屋町344-2
TEL 0725-55-3799 FAX 0725-55-4288

Mail : info@morihisayuki.com
稲穂通信 発行責任者 森ひさゆき

森 ひさゆき

検索

和泉を守るゲートキーパー宣言

和泉市議会議員

2014.10.30発行

森ひさゆき 稲穂通信 第6号

火打石

「いってらっしゃい」
カチカチと清める音に
カッコよさ。邪気を
祓って運が開けますよ
うに。



職員横領事件説明を受けて

(森) 事件を起こした本人や、そして首長である市長がとりだたされているが、本当のところこれでいいのかと思う。選挙で選ばれた市長は職務を全うする必要がある。この事件の件で少なからずその職務が停滞する。そのことは和泉市民18万7千人にとっては大きなマイナスである。事件を起こした本人は悪いが、そのことで市長の職務が停滞することの方が18万7千人にとっては不幸である。担当部課ですばやく対応処理すべきである。

人間の欲望は少しの欲望は効果的だが、欲望はどんどん増していく。今回のことは人間として起こり得ることである。コンプライアンスの問題を重視するというが、実は人間がその様な事をしてしまうからコンプライアンスができたのである。

会社の従業員が給与が安いとか、労働条件が悪いとかもし会社外の人に解決をもとめるとしたらどうだろうか。会社外の人には決してその従業員の満足を導き出してはくれない。

裏表紙 **B**へ続く



和泉市立病院について

(森) がん医療を中心に高度医療を目指すところがあるが、患者の身近な問題として定期健診の疑問、医療方針の疑問、抗がん剤の疑問、放射線治療の疑問、手術の疑問、再発の疑問、医療技術の疑問、他人事の疑問など患者の立場に立つことがどれだけ重要な事かということをもまず申し述べておきます。

(森) 基本構想に「患者中心」、「患者目線」との表現があるが、具体的にどのようなことを計画しているのか。

(理事) これまで市立病院が行ってきた患者アンケートでは、「いつでも診て欲しい」、また「特色であるがん治療を充実して欲しい」など、救急医療や高度医療への要望が強かったことから、今回の新病院構想・計画案においても、それらを重点に方針を定めております。医療面では、24時間365日断らない救急受け入れを目標に体制の充実を図り、またがん治療についても放射線の大型医療機器の導入や外科系専門医の充実をめざしてまいります。また、施設面では「ユニバーサルデザイン」はもとより、患者の視点に立ったやすらぎのある療養環境の向上をめざし、緑豊かな「ホスピタルパーク」としての

空間づくりや、入院中の患者の不安を少しでも軽減できるようなデイルームや面会スペースなど、「家族と憩える空間」の充実も図ってまいります。

(森) 負担割合について、3分の1が和泉市で3分の2が徳洲会が負担し、また医療機器などはすべて徳洲会が負担すると聞いている。契約では双方が2分の1負担だとされていたが、医療については高度医療でないとは今後は対応できないという徳洲会の判断での負担増だと認識する。また一部分の所有権登記はこれだけのリスクを負うため経営者側にとっても当然かと思う。和泉市にとっても所有権登記されるわけだから危機感をもったの取り組みが必要とされる。リスクを持たない安易な取り組みは全てにおいて上手くいかないと思う。今後お互いに明確な契約を交わし危機感をもってうまく連携することを強く望む。その中で今回の負担割合になった経緯を聞きたい。

(理事) 指定管理者の徳洲会からは、「今後の高齢化や医療ニーズの変化を見せると、相応の規模の病院で、しかも高度医療のできる病院が必要であり、そのための投資は覚悟している。和泉市民に医療として還元したい」という提案を受けておりました。しかしながら、市の想定規模以上の病院を建設するとなると、協定書どおりに市が1/2を負担するには、財政状況を考えると、おのずと限界が

あることから協議は難航いたしました。そのような中で、新病院はいかにあるべきか、医療や建設規模、負担割合を協議する中で、最終的に負担割合は徳洲会が大幅に譲歩が得られることになりました。特に、医療機器は全額負担、自主調達という形で、新病院建設時のみならず、今後の更新も担うようになり、これで、直営の時には難しかった故障等の緊急時への迅速な対応と患者サービス向上の両面が果たせると考えております。結果としましては、市は適正な負担で、市民に高度な医療を提供できる病院建設になるものと考えております。

(森) 先日、高齢の女性が救急車で運ばれた。しかし急性期病院のため2週間で退院しなければならなかった。国の方針では病院から家庭ということだが、現実には共働きであったりして介護は難しい。和泉市においても75歳の後期高齢者が10年後には約60%増加で、泉州医療圏では40%をこえるといわれている。近隣の府中病院、咲花病院で医療と福祉の連携が図られている。地域医療の中核である市立病院が医療だけでは社会的責任を果たせないのではないかと思うがその点はどうか。

(理事) ご指摘の点は十分に認識しており、今後ますます医療と福祉の連携やそれ